

ガザの証言：屈しない人々の悲劇 | ジヤードメドゥク教授

本日は、ガザ市に在住するフランス語教授であり、作家詩人でもあるパレスチナ人のジヤードメドゥク博士とお話しします。彼はガザから直接お話ししてくれます。パリ大学で言語学の博士号を取得したメドゥク教授は、ガザのアル=アクサ大学フランス語学科の責任者であり、同大学の平和センターのコーディネーターも務めています。

#M2

皆さん、こんにちは。Neutrality Studiesのパスカルです。本日はフランス語で、ガザ市に現在在住しているパレスチナ人のフランス語教授、作家、詩人であるシヤードメドゥク博士とお話しできる大きな光栄をいただきました。彼はガザから直接お話ししてくださいます。パリ大学で言語学の博士号を取得したメドゥク教授は、ガザのアル=アクサ大学フランス語学科の責任者であり、同大学の平和センターのコーディネーターも務めています。

#M3

メドゥク教授、こんにちは。こんにちはパスカル、そしてあなたのチャンネルを聞いている皆さん、こんにちは。

#M2

本日はお時間を割いてお話しいただき、本当にありがとうございます。ガザで起きていることはまさに壊滅的な状況です。そして、私たちがこちらから見ている限り、今もそこにいる皆さんがどのような状況に置かれているのか、想像するのはとても難しいです。ガザは今、世界で最も激しく爆撃されている場所です。あなたご自身の状況はどうか？そして、私たちが画面越しにしか見られないこの破壊の中で、どのように生き延びているのでしょうか？

#M3

まずはこんにちは、招待していただきありがとうございます。現在のガザ地区の状況は、非常に重要な5つの要素によって特徴づけられています。第一に、昼夜を問わず続く激しい爆撃です。第二の側面は、地域全体の大規模な破壊です。ガザ地区の85%が破壊されたと言えます。民間インフラ、学校、大学、井戸、商店、モスク、教会、住宅地などが含まれます。第三の要素は不足です。医薬品、食料、飲料水、ガス、あらゆるものがガザ地区で不足しています。第四の要素は飢餓の蔓延で、特に私が住んでいるガザ市を含むガザ地区北部で深刻です。

トラックは通れません。空からのパラシュートによる投下も効果的ではありません。なぜなら、それは海に落ちたり、屋根や人々の頭上に落ちたりするからです。そして、量も不十分です。五つ目の要素は、展望がないことです。これが続いてもう22か月以上になります。そのたびに、パレスチナ人たちは希望を持って「明日には終わるだろう」「明日には停戦があるだろう」「明日には休戦があるだろう」と言います。しかし今のところ、爆弾と市民全体の日々の苦しみが続いています。私個人としては、パレスチナ市民として、フランス語教師として、市民社会の一員として、私はガザのすべてのパレスチナ人と同じく、240万人のパレスチナ人の一人です。

これは日々の苦しみです。ですから、私にとって生活はとても厳しいです。朝7時から夜7時まで、とても大変な作業があります。朝はまず飲み水を探します。その後、食べ物を探そうとしますが、市場には何もなく、無駄に終わります。価格が考えられないほど高いか、非常に高価です。その後、ガスが禁止されているので、火を起こすための薪を探しに行きます。午後には、電気が通っていないので（発電所が破壊されたため）、太陽光パネルのある場所で携帯電話を充電しに行きます。通信網もありません。何もありません。ですから、電気は非常に貴重なものになっています。

だから、私たちは携帯電話やランプを充電するために、太陽光パネルがある場所を探しています。これが現実です。つまり、非常に厳しい日常です。その後、私は個人的に市民社会で積極的に活動しようとしています。子どもや若者のために活動を企画しようとしています。私たちの状況では難しいです。少しでも助けになろうとしています。市民社会のメンバーのために、高齢者や女性を助けようとしています。家族や社会の連帯がガザでは非常に強かったのに、今は最小限になってしまいました。なぜなら、何もなく、すべてが手に入らず、すべてが高価だからです。ですから、痛みや不幸、苦しみに満ちた非常に厳しい日常です。

#M2

あなたはガザの大学で教授をされていますが、その大学はまだ存在していますか？ まだ学生はいますか？

#M3

聞いてください、私はフランス語の教授で、アル=アクサ大学とガザ大学の二つの大学で教えています。アル=アクサ大学ではフランス語学科を設立し、ガザ大学ではフランス語センターを設立しました。しかし、残念ながら両方の大学が破壊され、フランス語学科やフランス語センターも含めて失われました。それでも私たちはバーチャル授業を行っています。少しでもオンラインで授業を提供しようとしています。しかし、学生たちにとっては必ずしも簡単ではありません。なぜならインターネットがなく、電気もないからです。

時々、彼らは電気やインターネットがある場所に行かざるを得ません。それはいつも簡単なことではありません。現在、約85%の学生が授業を受けていると言えます。若者や学生に会うのは難しいです。なぜなら、集まる場所がないからです。NGOも、カフェも、レストランもありません。しかし、私たちはこれらの学生や若者たちと連絡を取り続けようとしています。彼らを支え、励まし、この完全な災害の状況の中で希望を与えようと努めています。

#M2

イスラエルは常に、民間インフラ、たとえばあなた方の二つの大学を破壊しなければならなかった理由は、ハマスがそれを軍事拠点として利用していたからだと言っています。あなたの大学でハマスの関係者に会ったことはありますか？

#M3

聞いてください、私は個人的に政治的な話には興味がありません。私は市民のことに興味があります。市民は今、苦しんでいます。破壊されているのは、私の二つの大学だけでなく、民間インフラの85%が破壊されています。モスク、教会、学校、大学、井戸、住居、地域などです。つまり、ガザではすべてが破壊され、荒廃しています。破壊し、暗殺し、殺し、虐殺し、押しつぶすための口実が

常に見つけられています。私たちは大学であり、交流の場であり、自由の場であり、民主化の場です。なぜなら、ここは若者たちが出会う唯一の場所であり、授業だけでなく、研修や交流、ワークショップのために集まる場所だからです。

それに、私ガラルサの大学で平和センターを設立し、民主主義、女性の権利、表現の自由を促進してきました。これが第一のことです。そして、ガザの大学ではフランス語センターを設立し、フランス、ケベック、ベルギーの大学と多くの交流を行いました。つまり、現地には現実があり、私たちは働き、平和のために未来を準備していることが分かります。ですから、占領は常に弾圧や破壊の口実を持っています。私たちは今もここにいます。生きていくこと自体が奇跡ですが、私たちは使命を続けています。

私たちの使命は、政党や国家、政府の介入から離れたところにあります。それは若者たちを支援し、パレスチナ社会における民主主義を少しでも発展させ、寛容の原則、表現の自由、女性の権利、子どもの権利を育み、何よりも平和のための未来を準備することです。私は個人的に非暴力闘争を支持しており、パレスチナの平和主義者として、平和と未来のために活動しています。自宅が破壊され、地域が荒廃し、多くの家族や財産を失っても、私は自分の使命を続けています。強制的に移動させられましたが、それでも私は高貴な使命、すなわち未来を準備することを続けようとしています。私たちにとっての未来とは、平和と正義です。

#M2

皆さん、改めましてこんにちは。私たちは戻ってきました。少し接続が中断しましたが、今またジアドメドゥク教授と一緒にいます。ジアドさん、教えてください。ヨーロッパやアメリカ、さらには日本でも、イスラエルがガザの民間人に対して引き起こしている破壊や死をジェノサイド（集団虐殺）と呼ぶべきかどうか、まだ議論が続いています。あなたはどう思いますか？ ガザで起きていることを表現するのに、どんな言葉が最もふさわしいと考えますか？

#M3

ご質問にお答えします。私はガザのパレスチナ人として、爆撃の下で生きています。毎日苦しんでおり、絶対的な恐怖の中で暮らしています。ですから、私自身の言葉を使うことはしません。国際機関に証言を委ねます。なぜなら、私がそのような言葉を使えば、「パレスチナ人だから、その言葉や概念、表現を使うのは当然だ」と言われてしまうからです。ですので、現地において代表団も派遣している国際機関や国際的な省庁、国連がその言葉を使う方が良いと思います。しかし、私個人としては、その言葉を使うことはできません。私たちは絶対的な恐怖以上のものを経験し、壊滅的な状況にありますが、それでも私はその言葉の使用を国際機関に任せたいのです。

#M2

わかりました。それで、現在の食糧事情はどうなっていますか？ 住民は何らかの生活必需品を受け取ることができていますか？ 今ある物資はどこから来ているのでしょうか？

#M3

ガザ市内やガザ地区北部では、何も通過していません。残念ながら、そこでは食料品が手に入らず、価格も考えられないほど高騰しています。一方で、ガザ地区南部にはトラックの車列が通っています。だから、そちらでは…さらに、南部、つまりガザ地区の中心部には、占領軍が2つの支援配給センターを設置しました。そのため、人々は命の危険を冒し、ドローンや狙撃兵に狙われる可能性があっても、そこへ向かっています。

しかし、5月27日以降、パレスチナ人の死者は300人を超えています。支援チームは人道支援を求めて現地に向かいました。その後、空中投下が行われています。つまり、フランス、イタリア、スペイン、アラブ首長国連邦、ヨルダン、エジプトなどいくつかの国の軍用機が現地に来ているのです。これは食糧支援を投下するためですが、不十分であり、愚かな解決策です。食料品は海に落ちたり、屋根や人々の頭上に落ちたりします。3日間で29人が亡くなりました。つまり、これは効果的な解決策ではないことを示しています。

最も重要なのは、占領側に圧力をかけて、すべての通路を開放し、国境で保管され傷んでいる人道支援物資をガザ地区に搬入できるようにすることです。そこでは、飢餓と栄養失調に苦しむ240万人のパレスチナ人のニーズを満たす必要があります。2025年8月5日現在、飢餓と栄養失調によるパレスチナ人の死者は138人で、そのうち14歳未満の子どもが95人です。つまり、女性や高齢者、若者も栄養失調や飢餓によって亡くなっているということです。

#M2

あなたの考えでは、援助の配分は国連が行うべきでしょうか？ それとも、イスラエルを介さずに援助を配分する方法があると思いますか？

#M3

聞いてください。2025年1月19日から2025年3月2日までの2か月間の停戦中、すべての通路が閉鎖されるまで、国連や国際機関、7つの国際組織が活動していました。家族再会プログラムやANERA、国際SAUDEなどがありました。これらの組織は国連に加えて、人道支援物資を倉庫で配布しており、人々にSMSを送信していました。私たちは自由に倉庫に行き、問題なく人道支援を受け取ることができました。

それはガザ地区全域、北部やガザ市でも同様でした。現在、トラックは飢えた人々や武装集団によって奪われたり、配給センター自体が危険な場所、死の罠となっています。私は国連に責任があると思います。占領側は通行所を開放しなければなりません。国連は再びその役割を果たすべきです。つまり、援助物資を国境で受け取り、倉庫に保管し、その後、困窮した家族に dignité (尊厳) を持って食料パッケージを受け取れるよう連絡し、そうすることで食料品が必要な人々に行き渡るようにすべきです。

今とは違います。今では、ガザ市内で小麦粉1キロが最大65ユーロ、砂糖1キロが最大130ユーロにもなります。これは前代未聞で、考えられないほどの価格です。しかし残念ながら、商人や戦争で利益を得る者がいるだけでなく、何よりも深刻な品不足があり、ガザ市内では手に入らないたんぱく質もあります。そのため、価格は想像を絶し、人々はこの価格のせいで家族を養うことができません。しかし時には、他に選択肢がなく、子どもたちに食べさせるために、たとえ考えられない価格でも買わざるを得ないのです。

#M2

はい、その通りです。私たちには選択肢がありません。友人たちから質問を受けました。「なぜ外部からの支援が不可能なのか」と。あなたたちは外部からの支援を受けていますが、今までのところ、イスラエルがガザに入るすべてのものを封鎖している、あるいはイスラエルが何が入るかについて最終的な決定権を持っている、そうですね？ ガザの人々が支援を受けるための他の手段はなく、イスラエルが検問所を開けない限り、支援は届かないのですか？

#M3

もちろん、それは占領です。占領が通行を管理しています。イスラエルとガザ地区を結ぶ通行口は5つあり、すべて占領側が管理しています。すべては占領を通さなければなりません。各国や国際団体が支援物資を国境まで送っても、支援は通行口に届きますが、支援を中に入れるには占領によって妨げられています。これが第一の問題です。支援をしたい、直接お金を送りたい個人や団体も、すべてが妨げられています。なぜなら、ラファ検問所は2023年11月27日から閉鎖されているからです。そのため、金融機関が50%を手数料として取り、商人たちが残りを吸収しています。今、もしガザに1,000ユーロを送ったとしても、1,000ユーロの価値は以前とは違い、今では100ユーロにも及びません。

つまり、もし1,000ユーロを送金した場合、その価値の90%が失われるということです。ユーロでの価値はありますが、今日のガザでは1,000ユーロは実際には100ユーロの価値しかありません。つまり、金融仲介業者が50%を取ってしまうのです。なぜなら、私たちには現金も、流通経路も、銀行もないからです。したがって、これらの金融仲介業者や両替商の手元にあるわずかな現金に対して、彼らは50%の手数料を取ります。逆に、彼らが食料品を販売する際の信じられないほど高い価格によって、さらに30~40%が吸収されます。ですから、もし100ユーロを支払っても、実際に受け取るのはわずか10ユーロです。そのうち2ユーロを使うことになります。すべてが行き詰まり、特にガザ市やガザ地区北部の住民は日々苦しんでいます。

#M2

あなたの考えでは、ヨーロッパやアメリカの人々があなたたちを支援したい場合、最善の選択肢は何かでしょうか？ 財団の一つに寄付することですか、それとも本当にガザであなたたちを支援できる国際組織に寄付することですか？ そもそも選択肢はあるのでしょうか？

#M3

聞いてください。国際機関は行き詰まっています。食料品を搬入することができません。たとえ一度許可が下りても、それらは盗まれてしまいます。そして、もし国際機関の倉庫に届いたとしても、それでは不十分だと彼らは言います。彼らは自分たちの倉庫に保管します。夜になると、武装集団や飢えた人々が倉庫を襲撃し、物資を奪っていきます。ですから、状況は非常に複雑になっています。住民が食べていけるように、占領側は1日に500台から600台のトラックの搬入を認める必要があります。これが第一です。第二に、人々にとってはこの選択をするのが難しいのです。それに何の意味があるのでしょうか？

多くの方が支援を申し出てくれますが、私が言ったように、もし1,000ユーロを送ってくれても、私たちの手元に届くのは100ユーロだけです。私は、人々が待つか、あるいは連帯に関心を持ってくれる方がいいと思います。私にとって連帯とは、情報の共有や本の購入、署名活動があれば参加したり、デモや集会に参加したりして、解決策を待つことです。私にとって理性的な考え方は、このお金は無駄になってしまう、浪費されてしまうということです。なぜなら、私たちは、支援してくれる善意の人々のお金を無駄にするくらいなら、苦しむ方を選ぶからです。彼らは送りがたってくれますが、残念ながら現実を知らないのです。

私もティエールムラッドのように、自分が見たこと、書いたことについて話そうとしています。たとえその影響が大きくなってでもです。そして、現地の団体も何年も努力してきました。パレスチナ人を支援すると主張する団体や活動家に連絡を取ってきましたが、実際にはそうではないかもしれません。これらの活動家や団体は、顧客のようなものです。つまり、現地に知り合いがいなければ、食料を提供してもらうことはできません。これが現実です。一般化することはできません。だからこそ、今日来てくれる人たちに感謝しています。私は車の機会を待っていますが、今のところ、すべてが止まっているので送る価値はありません。

#M2

私の考えでは、唯一の解決策は政治的な解決を見つけることです。ガザの悲劇はまさに政治的な悲劇です。あなたの考えでは、ガザの将来、イスラエル国家の隣にパレスチナ国家を築くための解決策は何でしょうか？それはあなたにとって想像可能ですか？私たちが未来を切り開くために使える政治的な道筋は何でしょうか？

#M3

聞いてください。私たちは、この紛争に軍事的な解決策は決してないと確信しています。唯一の解決策は政治的な解決です。これが第一のポイントです。したがって、政治的な解決策は三つの側面に要約されます。まず、自由で独立したパレスチナ国家の樹立であり、ガザはこの将来の国家の不可分な一部です。ガザ地区とヨルダン川西岸の地理的な連続性も必要です。二つ目の非常に重要な点は、パレスチナで緊急に選挙を実施することです。これまで25年間、選挙が行われておらず、パレスチナ人の間で分裂が生じています。

ガザには政府があり、ヨルダン川西岸にも政府があり、分裂が存在しています。そして、住民たちは自分たちの運命に任されているのが分かります。それは占領だけでなく、国際社会だけでなく、パレスチナ人自身、政党、当局、ガザの政府も同様です。彼らは期待に応えていません。実際にガザ地区を管理し、価格を決めているのは商人たち、私たちの仲間たちです。だから、私たちの不満は明らかです。決めているのは彼らであり、彼らが盗んで非常に高い値段で再販売しています。だから、選挙の実施は緊急の課題です。

そして三つ目の側面は、失敗を超えて和平プロセスを再開することです。唯一の解決策は平和であり、国際法の適用、そして何よりも国内での正義です。それこそが唯一の解決策です。しかし、暴力や軍事行動では決して結果は得られません。そして、私たちはほぼ23か月間、その結果を目の当たりにしてきました。戦争は荒廃をもたらし、6万人が死亡し、10万人以上が負傷し、1万5千人が行方不明になっています。つまり、何よりも尊重の欠如が問題なのです。和平プロセスを再開するには、他に解決策はありません。唯一の解決策は平和ですが、それは正義のある平和です。

#M2

ハマス側が先に停戦をすべきだとお考えですか、それともイスラエル側が先にすべきだとお考えですか？暴力の終結に向けた具体的な道筋が見えるのでしょうか？

#M3

聞いてください、唯一の解決策は国際社会です。しかし残念ながら、国際社会はその役割を果たしていません。国際社会は、10月7日から今日まで、その効果を示していません。国際社会は非難し、糾弾し、決定を下します。しかし、ガザのパレスチナ人たちは具体的な行動を待っています。具体的とは何でしょうか？それは国際法を適用することです。今日のパレスチナ人たちは、無理な要求をしているわけではありません。彼らは国際法の適用を求めているのです。はい、私たちは停戦に賛成です。人質の解放に賛成です。この悲劇の終結に賛成です。平和に賛成です。

わかりましたが、国際社会がこのままでいるなら、それは共犯であり、沈黙していることになり、物事は進展しません。占領に圧力をかける必要があります。通路を開放し、国際的な緊急支援を届ける必要があります。そして何よりも、和平プロセスを再開しなければなりません。和平プロセスは今、完全に行き詰まっています。占領側はこの状況を利用して、入植を加速させ、ガザ地区を占領し、ガ

ガザ地区を拡大し、数十人の民間人やパレスチナ人を殺害しました。今こそ平和を築く時です。今こそ暴力を止める時です。今こそ次の世代のことを考える時です。私が先ほど言ったように、軍事的な解決策は決してありません。

若者たちに発言の機会を与えるべきです。選挙を実施し、彼らに自己表現の場を与え、この新しい世代に希望をもたらす必要があります。そのため、私たちは単に休戦や停戦を求めているのではなく、何よりも政治的解決、すなわち占領の終結、植民地化の終結、自由で独立したパレスチナ国家の樹立、そして何よりもこの多くの苦しみと犠牲を払ってきた地域における正義ある平和の実現を求めているのです。この状況に至るためには、私の考えでは、時間が非常に速く過ぎており、日々制裁が科されています。ですから、この悲劇を止める時が来たのです。

私は若者や子どもたちと多く関わっており、子どもたちのために活動を行うたびに、若者たちと一緒に活動するたびに、子どもたちが教育センターに通うのを見るたびに、学生たちがオンライン授業を受けているのを見るたびに、彼らが以前よりも暴力的でなくなっていくのを感じます。つまり、私は市民社会の同僚たちと共に、彼らに希望を与えようとしています。彼らを支え、見守ることが必要です。人々、若者や子どもたちと接すると、彼らは暴力的でなくなっていく。しかし、もし若者たちを放っておき、見捨ててしまえば…だからこそ、私は個人的に関わることを決意しました。なぜなら、私はこれらの若者や子どもたちにとって模範となる存在だからです。

このため、私は政治的な解決策が見つかることを願っています。問題は、毎回暴力的な闘争が提案され、平和的な選択肢が提案されても、占領がすべてを押しつぶしてしまうことです。私の考えでは、この世代に希望を取り戻させる必要があります。他の世代を救うために、可能性を加速させ、再び動かす必要があります。それが唯一の解決策です。私はそれを確信しています。私はガザに残ったことを誇りに思っています。私は平和的な選択をしたことを誇りに思っています。私は教育を抵抗の形として選んだことを誇りに思っています。私はレジリエンスへの執着を抵抗の形として選んだことを誇りに思っています。私は自分の闘いを続けます。それはいつも簡単なことではありません。私は平和、そして正義のある平和が訪れるまで闘い続けます。

#M2

イスラエルから聞こえてくるのは、今存在しているガザに関する計画について、とても恐ろしい言葉がたくさんあります。つまり、パレスチナ人のいないガザ、完全に征服されたガザ、今のような占領だけでなく、ガザ地区全域にイスラエル兵が駐留するというものです。ガザの人々が占領下で未来を持つことは可能だと思いますか？イスラエルによるガザの完全占領というこの計画について、どう思いますか？

#M3

とても重要な点をお伝えしたいと思います。10月7日から今日まで、ほぼ9か月が経ちましたが、それは絶対的な恐怖の9か月、地獄の9か月、国への攻撃の9か月、絶え間ない爆撃の9か月、大規模な棄権、飢餓、すべての人々にとっての死の9か月でもあります。しかし、同時に9か月のレジリエンス（回復力）でもあります。確かに、損失は非常に大きいです。死者、負傷者、大規模な破壊、家族、医療システムの崩壊。しかし、住民は今もそこにいます。皆さんに分かりやすい数字をお伝えします。ラファ検問所を通じてガザ地区を離れることができたパレスチナ人は、わずか10万人しかいません。

つまり、以前は250万人でした。今も250万人です。エジプトや中南米、ヨーロッパに勉強や仕事のために行ったパレスチナ人はわずか10万人しかいません。ですから、何があっても240万人がここに残っています。彼らは日々苦しみ、命の危険にさらされていますが、残ることを決意しました。計画

に対しても抵抗してきました。私たちは今もここにおいて、生きているというよりは生き延びている状態です。なぜなら、普通の生活はなく、日々の生活はとても困難で、異常な生活、異常な生存ですが、それでも私たちはここにいます。ここは私たちの土地であり、私たちは決して去りません。

個人的には、多くの友人たちから「私の場所に来て、政治について提案するよ」と言われたことがあります。今では、授業や講演会、シンポジウム、詩集や大学の最初の課題のためのエッセイを発表するために、数ヶ月前から来ることができます。しかし、私は決して庇護を求めることはありません、公平のために。そして、その理由は単純です。私には「パレスチナ」と呼ばれる人生があり、「ガザ」と呼ばれる人生があるからです。私はガザにとっても強い愛着を持っています。確かに、今のガザは瓦礫の野原です。ガザは荒廃し、破壊され、地図から消されてしまいました。

でも私はここ、ガザに残ることを選びます。これがずっと私の選択です。少しは分かるでしょう、だから大丈夫です。経済については、地域的であれ国際的であれ、トランプの計画を思い出してください。ガザからパレスチナ人を追い出すという大規模な計画です。しかし私は、この新しい計画は失敗すると考えています。なぜなら、ここには意志があり、決意があるからです。そして私は思います…長い間、占領の唯一の目的は、これらの攻撃や侵略を通じてパレスチナ人を追い出すことでした。しかし、パレスチナ人はここにいます。なぜ占領は3年か4年ごとに攻撃や侵略を行うのでしょうか？それは、封鎖や経済的困難にもかかわらず、パレスチナ人が常にここにいるからです。

目的はこれらの民間人の意志を打ち砕くことですが、彼らは今もそこにいます。だから、すべての計画は失敗します。なぜなら、ここには人々がいるからです。ここで、1948年、つまりその年と現在を比較してみましょう。1948年には、私たちの祖父母や両親が1948年の領土を離れざるを得ませんでした。彼らはヨルダン川西岸、エルサレム、ガザに来ました。その後、レバノン、シリア、エジプト、ヨルダンに行き、キャンプで生活し、さらに世界中に散らばりました。現在、国外には900万人のパレスチナ人がいます。そして、これらのパレスチナ人は、いつか自分たちの土地に戻ることを必要としています。

しかし今日、1948年には虐殺がありました。しかし、彼らはアラブのステレオタイプに関与しています。そして今日、虐殺以上のことが起きていますが、パレスチナ人は依然としてそこにいます。目覚めが起こっています。これがパレスチナ人の強みです。大統領職以外でも、彼らは自分たちがとどまらなければならないことを理解しました。たとえ命を失い、死に、苦しむことになっても、彼らはそこに居続けます。彼らはそこにいます。あなたの質問に直接答えると、パレスチナ人がそこにいて、しがみついている限り、すべての地域的または国際的な計画は失敗するでしょう。そして何よりも、未来への希望があります。

#M2

私には信じられませんが、あなたには心から同情します。それにしても、そのレジリエンスはどこから来るのでしょうか？今、この苦しみは計り知れません。こちらから見えるのも、私たちが目にする映像もそうです。あなた方のレジリエンス、つまり人々として、文字通りガザを離れないその強さは、どこから来るのでしょうか？

#M3

聞いてください。私は、侵略の間出版された私の本を読んで活用していただくことをお勧めします。私は侵略の間、あるいはその前に出版された本が三冊あります。私自身のケースについてお答えします。私の個人的なケースを、パレスチナの全ての人々に広げて考えたいと思います。私には、ここにとどまり、レジリエンスを持ち続けることを強いる三つの要素があります。まず、非暴力の原則です。非暴力であることは、弱いということではありません。むしろ、強いということです。ですか

ら、私の信念、原則、非暴力闘争を選んだことが、私を自分のアパートにとどまらせました。人々のそばにいて希望を与え、大地にしっかりとつながり続けるために、とどまるのです。

これが平和的な闘争であり、非暴力による闘争です。子どもたちのために行動を起こし、人々が大学に通うことを奨励し、そして、そう、生徒たちがセンターに通うことを奨励するのです。他に授業がないからです。二つ目は連帯です。国際的な連帯です。私は毎日、写真やデモ、集会を通じて、フランス語圏の国々やパレスチナ、フランスだけでなく、世界中、日本、オーストラリア、アメリカ、世界中でデモが行われているのを目にします。この連帯が、私の怒りを和らげてくれるのです。

私自身、フランス語を話す友人たちのネットワークがあり、毎日何十通、何百通もの支援のメッセージを送ってくれます。これらの支援のメッセージは、私の怒りを和らげ、心を落ち着かせてくれます。なぜなら、私たちパレスチナ人はすべてを失ったからです。土地も、財産も、家も失いました。私たちに残されているのは、土地への執着心と、何よりも国際的な連帯です。なぜなら、私たちは公式な国際社会や国家、特権階級から見捨てられているからです。こうした人々は連帯の立場を取るべきです。団体や組織は、パレスチナの大義を正義の大義として支援しています。そしてまさにこの連帯が、パレスチナの大義が普遍的なものであることを示しています。それはパレスチナ人だけに関わる問題ではありません。

これはアラブの問題ではない。これはイスラエルの問題でもない。人類の問題だ。なぜなら、ここには抑圧があり、ここには不正義があるからだ。デモや集会に参加し、署名活動をし、メディアに手紙を書く人々は、ジヤードミルードをパレスチナ人だから、ガザ出身のパレスチナ人だから支援しているのではない。そうではなく、彼が人道主義者であり、同じ人間だから支援しているのだ。だから、パレスチナ問題は国際的な問題であり、正義の問題だ。それはパレスチナ人やムスリム、アラブ人だけのものではない。

だからこそ、それが私の狂気を鎮め、特に戦時中に抵抗を続ける勇気を与えてくれます。三つ目の側面、これは私自身に関わることですが、それはフランス語です。パレスチナ人として、フランス語教師として、フランス語は私にとって希望の言語、平和の言語となっただけでなく、何よりも守りの言語となりました。なぜなら、私はフランス語で書き、証言し、表現しているからです。私は自分の証言や、メディア、ウェブサイト、新聞、あらゆる団体とのインタビューや対談を通じて、フランス語で新たに発信し続けています。

それで、フランス語は私にとって守りの源となりました。なぜなら、私はフランス語で考え、フランス語で書き、フランス語で思考するからです。だから、この言語は私に理性を与え、数多くの意見や支援のメッセージを受け取ることができ、それが私の怒りを和らげてくれました。つまり、フランス語は私にとって守りの源となったのです。そして、この三つの要素、三つの理由があります。国際的な連帯、そしてイタリアや太平洋地域、そしてフランス語です。そして、たとえ一つの源が絶たれても、生活条件がひどいものであっても、それでも私は励まされます。

たとえ私が何ページも、何冊も書いたとしても、現実を書くことも語ることもできません。現地の現実はもっと厳しいのです。海外から写真やビデオを見ることはできるかもしれませんが、それは実際に起きていることに比べれば何でもありません。それは単なる詩的な表現ではなく、現実であり、厳しさなのです。つまり、本当のところ、日々が完全な苦しみののです。それでも、私たちは皆、今もここにいます。そしてこれは私自身のことを話していますが、ガザに残ることを決めたすべてのパレスチナ人にも当てはまります。私は希望を持っています。パレスチナ人が今日を生き延びることに希望を持っています。

#M2

今、皆さんが一つの民族として行っていることは本当に素晴らしいことです。しかし、最後にこのインタビューを締めくくるにあたって、ガザの外でフランス語、英語、ドイツ語であなたの話を聞いている全ての人々に、まだ伝えたいことはありますか？今ガザで起きていることで、まだ話していない、知っておくべきことは他にありますか？

#M3

聞いてください、私はあなたのチャンネルに三つのメッセージを伝えたいと思います。ですから、このインタビューの機会をくださったパスカルさんに感謝します。先ほども言いましたが、私は証言するたびに気持ちを落ち着かせています。なぜなら、ガザにいと爆発しそうな気持ちになるからです。現地では暴力、死、破壊、飢餓があり、すべてが複雑で恐ろしい状況です。ですから、私の最初のメッセージは、世界中のすべての連帯してくれる人々に感謝したいということです。彼らの支援、献身、そして行動に感謝します。連帯する人々はこの活動を続けるべきだと思いますし、彼らに拍手を送りたいです。この連帯は私たちにとって大切です。なぜなら、多くの連帯者や友人たちが、自分たちが無力だと感じていると私に言ってくれたからです。

私たちはあなたたちを助けたいと思っていますが、逆に、あなたたちは無力ではなく、強いのです。とても重要な側面があると思います。それは認識と変化であり、多くの国々の行動ではなく、少なくとも言葉の上での変化です。これはこの動員やデモと関係しています。なぜなら、ヨーロッパの大統領たちが「9月にパレスチナ国家を承認する」と言っても、実際に実現するための支援はありません。そして、それはこの動員のおかげです。ですから、私たちにはこの動員のために果たすべき役割があります。二つ目に、ガザのパレスチナ人の中には決してガザを離れない人たちがいます。だから、私たちは常にここにいます。私たちの政党も、この選択を続けていきます。

そして何よりも、私は世界中の人々に対して、特に占領側のプロパガンダを繰り返す公式メディアなどのプロパガンダに惑わされないように求めます。現実には厳しいのです。情報を得る場合は、信頼できる情報源、つまり現地に住んでいるパレスチナ人から情報を得るように努めてください。幸いなことに、英語やフランス語、スペイン語、ドイツ語、日本語、中国語を話すパレスチナ人がいます。これは、パレスチナ、特にガザ地区では文化や教育の水準が非常に高いという利点です。ぜひ連絡を取るようになってください。

つまり、若者は若者同士で、医師は医師同士で、ジャーナリストはジャーナリスト同士で、女性は女性同士で、学生は学生同士で、現実を理解するために交流するということです。なぜなら、メディアやウェブサイト、写真、新しい情報、動画で目にするものは、現実に比べれば何でもないからです。現実とは、私たちが現実から理解するものなのです。現実を理解するためには、複数の言語を話すパレスチナ人と連絡を取る必要があります。一方で、連帯の意志を示すことができますが、何よりも本当に起きていることについて真実の証言を得ることができます。たとえ語るのが難しく、説明しづらくても、少なくとも情報源を持つことが大切です。それも今日のように、パレスチナ人自身からです。

ですから、このインタビューでは客観的であろうと努めています。現実を客観的に示そうとしています。これが私の三つの主なメッセージです。そして改めて、パスカルさん、このインタビューをありがとうございます。これが放送され、多くの人に聞かれ、反響があることを願っています。なぜなら、それが目的だからです。現実を示し、私たちの偏見を解体し、私たちの日常を語り、そして何よりも世界中に伝えたいのは、私たちは平和を愛し、正義を愛し、希望を愛する民族であり、誰もがそうであるように生きるに値する民族だということです。

#M2

この非常に力強いお言葉をありがとうございます、ジアドメドゥク教授。あなたのお言葉を私たちのすべてのチャンネルで伝えます。

#M3

こんにちは。さようなら、パスカル。

#M2

さようなら。さようなら、パスカル。ありがとう。また今度。ありがとう。